

## 小金井市立保育園の今後の運営に係る保護者説明会 議事録（質疑応答）

日時：令和3年10月16日 午前9時00分～午前11時22分

会場：南中学校 体育館

対象：わかたけ保育園の保護者

参加者数：14人

### 【質疑応答】

○三浦保育課長 では、3列目のチェックの男性の方、今、マイクをお持ちしますので、少しお待ちください。

○参加者 本日はこのような場をつくっていただき、ありがとうございます。保護者の●●●と申します。一保護者として、また、市内の公立小学校の教員としてお話を聞かせていただきましたけれども、幾つかご意見をさせていただければと思います。

まず、施設の課題という4ページの議論についてですが、確かに築年数が経過しているからという点は理解できます。ただし、これは、公立の教育という観点から、小学校や中学校にも同様のことが言えるのではないのでしょうか。確かに老朽化というのは問題ではありますけれども、だからといって、例えば、じゃあ、小・中学校が同様に廃校になると言われたら、そうではないと思います。にもかかわらず、公立保育園を廃園にするということは、理解できないです。公立小学校、中学校であれば、段階的ということはないんで、建て替えをするための場所を用意し、子どもたちや教職員はそのままに、建て替えが進むまで仮設校舎ということをするはずで、ましてや、築年数の経過というのは、いずれ直面する問題であるはずで、公立保育園だけこのような形で廃園という理由にはならないのではないかと考えております。

それは、予算に関しても同様で、ランニングコストの話もありましたけれども、多くの保護者の方や、これから入園を考える保護者の方が公立保育園を選ぶというのは、そちらだけ公立保育園に期待するところが多いからだと考えております。実際、私たちもわかたけ保育園を選んでいるのは、公立保育園への信頼や期待があるからです。

くりのみとかさくら保育園が廃園になる、それによって、現保護者だけでなく、これから入園を考える保護者にとっても非常に残念なことだと考えておりますので、ぜひお考えを改めていただければと考えております。

以上です。

○西岡市長　ご意見、ご質問、率直なお気持ちをお聞かせをいただきまして、誠にありがとうございました。ありがとうございました。

おっしゃるように、小学校、中学校もかなり老朽化が進展しつつあります。現在、小金井市では、保有している全ての公共施設の個別計画というものを策定いたしまして、これまでいろいろな調査・検討を行ってききましたが、小金井市が保有してる公共施設全体の中で、60%以上が学校であります。したがって、ご指摘のように小学校、中学校、これから学校の長寿命化であったり、改築であったり、その学校の建築状況に合わせて、長期的な視点を持って、これから施設の対策に取り組んでいかなければいけない現状であります。

なお、この保育園につきましては、この間、小金井市では、「すこやか」、いわゆる保育の質のガイドラインも含めまして、初めての計画の策定や、継続的に取り組んできた保育定員の拡充による待機児童数の大幅な減少など、保育の質の維持・向上及び量の拡充に努め、保育施策の充実に向けての環境が整いつつあります。しかしながら、ご指摘いただいたように、全国的な課題ともなってる公共施設の老朽化をはじめ、今後も継続して取り組むべき課題は山積してございまして、小金井市の保育施策はですね、大変大きな転換点を迎えてございます。

このような状況の中で、これまで検討してきた公立保育園の民営化につきましては、在園児童及び保護者への影響を最小限に抑えつつ、将来を見据え、さらなる計画の延伸は避けなければならないと考えました。

また、引き続き、厳しい財政状況が今後も続くものと予想される中、限られた財源を有効に活用できるよう、より一層、効果的かつ効率的な施策の充実にも努める必要があります。このため、これまで検討してまいりました公立保育園の民営化という方針につきましては、これまでの考え方を改め、園児及び保護者の気持ちに寄り添いながら、老朽化が進む園舎での保育に区切りをつけまして、市財政にも一定の効果を見込むことができる廃園方式、段階的縮小による廃園方式を選択することが、小金井市として最も適しているという結果となりました。

既にお配りしてございます、保育業務の総合的な見直しに係る見直し検討結果、もうお配りしてるものでございますが、この19ページにございますように、6つの手法を検討し、方針案としてまとめさせていただいたものでございます。

この間、小金井市は、市特有の課題として、長い歴史を振り返って見ますれば、駅周辺のまちづくりであったり、あるいは、庁舎の建設であったり、ごみ行政、いわゆる可燃ごみの処理施設、自前のものを持ち得ることができなかったことなど、市特有の課題がありまして、市民生活を支えるために、市長としては全市的な視点に立って、市政運営を行っていかねばなりません。そういった観点から、今般、最も、私たちは、大切な大切なお子様への影響を避けることができる方針案というものをまとめさせていただいたものでございます。

なお、お配りしている方針案の修正版の12ページですね、「保育サービスの拡充概要(案)」というものをお示ししてございます。この段階的縮小を進めながら、私としては、これまでなかなか充実することができなかった対策や、これからどうしても保育全体の、小金井市の将来にわたって小金井市全体の保育の質を上げていくための5番、6番、この辺りの取組を何としても拡充してまいりたいと考えてございます。これらの保育サービスの拡充策を実践していくためにも、今般の段階的な縮小、そして、2園が先行廃園となりますが、わかたけ保育園につきましては令和10年4月1日以降、この二つの段階的縮小の進捗状況などを見ながら、総合的に判断をしていくこととさせていただきます。どうかご理解を賜りたいと考えてございます。

私からの回答、以上です。

○平岡保育政策担当課長 平岡と申します。よろしく願いいたします。

制度的なところで、少し補足をさせていただきます。

今、お話をいただきました、小・中学校と保育園との違いというところですが、おっしゃるとおり、小・中学校は義務教育ということで、公教育で実施していくことが基本とされているのではないかと考えております。

一方、保育園につきましては、保育園が必要な方に対して保育を実施していくことにはなっているんですが、その実施主体については、必ずしも自治体が直営で行わなければいけないというような制度となっております。そのため、この間、保育の待機児童の関係に関しましては、民間保育園を開設するなどを行うことで対応してきたというのも、そういう理由となっております。

ですので、ご質問者のおっしゃるとおり、同様の制度の中であれば、公立は公で建て替える以外の選択肢は考えることはないんですけれども、保育については、公立でも民間でも同様に保育の実施ができる状況にあることから、このような考え方に至ったとい

う側面もありますことを補足させていただきます。

以上です。

○三浦保育課長 よろしいですか。

では、次にご発言をされる方、いらっしゃいましたら、挙手をお願いいたします。

はい、2列目の男性の方、お願いいたします。

○参加者 保護者の●●●と申します。ご説明の機会いただきまして、ありがとうございます。質問ということで2点ですかね、基本的に資料のところで質問させていただこうと思います。

一つ目なんですけども、保育園の廃園ですとか、そういったことについて、10年間の経費で、10億円単位で経費が要ということが明記されてございます。8ページ参照させていただいております。

こちらに関してなんですけども、浮いた経費をどういった形で使われるかというのと、先ほど、建て替えに関する費用なんですけども、概算で4.5億円で、ここに関しては、この期間の借地ですとか、そういったものが記載されてないということですが、そちら記載した場合、拡充した場合におきますと、考慮した際に、もしかしたら廃園の一つでも減らすことができるんじゃないかなというのが一つ目の質問でございます。

もう1点なんですけれども、その財源に関してなんですけども、今回、13億円浮きますとか、民営化することでメリットありますという話をいただいているんですけども、資料、もしくは皆さんのご説明の中で、小金井市のほうは財政が厳しいというのは変わらない、むしろ、今後も減っていくというような話がございました。ということは、現在は、確かに、土地開発ですね、駅前にタワーマンションが建ったりですとか、住民が増えているので、少しは人口の集中というはあるかもしれないんですけども、人が入ってくる際に、例えば、ざっくりとした考えなんですけども、このような保育園が減っていく、民営化を極端にされるという印象を持たれた場合、お子様をここで育てたいかとか、そういった意見を持たれない方が流入されるとなると、高齢化の波がさらに加速するのではないかと、ということを考えております。まあ廃園にしたところの土地の方針、売却とかは決めてないということだったんですけども、小さい土地ではあるんですけども、企業誘致ですとか、そういったご検討とか、多少は選択肢としてあるんでしょうかと思ってご質問をさせていただきます。

以上です。

○三浦保育課長 ご質問、3点でよろしいですね。

○西岡市長 ご質問ありがとうございます。

私、または担当から、連携しながらご答弁させていただければと思います。

まず、ちょっと質問の順番が変わってしまうかもしれませんが、冒頭、私が申し上げましたように、この財政効果につきましては、私といたしましては、子どもたちの将来のために、有効にこれらを活用していくことが求められているというふうに考えております。

具体的には、様々な分野があると思いますが、今後必要となる妊娠、出産、子育て期の切れ目のない支援、これは多様な支援が求められておりますし、昨今、10月1日から新たに小金井市では、1年半ほど前に小学校1年生から3年生まで義務教育医療費助成ということで、実質、医療費ゼロとなるという形で対象を拡大しました。今年の10月の1日から、3年生から4年生まで拡充しました。今後は、中学校1年生から3年生までを対象の範囲に広げていきたいと思っておりますし、私も自分の任期中に何としましても対応していきたいと思っております。

このように、0歳児から、少なくとも中学校卒業するまでの15歳までの間、切れ目のない子育て支援、そして、小金井市の拡充していかなければいけない部分、また、多様な市民の方々からのご要望があります。こういったことにしっかりと応えていきたいと思っておりますので、また、これから先、子育て、教育分野の拡充をしていくためには、今申し上げたこと以外にも、実に様々なことに取り組んでいかなければいけませんので、私はこの段階的縮小という方針に伴って発生する財政効果は、子どもたちや子育て中のご家庭の方々への支援など、また、子どもたちの教育環境の向上に充ててまいりたいということをして市長としては決断しているところでございます。

また、土地の関係がございました。旧園舎の解体、仮園舎建設及び解体、仮園舎用地、借用地費用を除く、これを入れた場合に実際どうなるのかということです。これは、具体的なケースが定まっていないので、明確な金額を示すことはちょっと困難なんですけれども、まず、仮定の話でありますけれども、公立保育園の場合は現地再整備、つまり、今の保育園の運営を継続しながら別な建物を建てるということは、できないと思います。これは、技術的にも難しいです、土地の広さからいってもですね。

したがって、その場合は、移転か、別なところに一旦建てて、そして元の場所に新しい建物を建てて帰ってくるという方式、大きく二つあると思います。どちらにして

も、代替地という土地をこの近くに、近隣地に求めなければなりません、これが本当にその土地が確保できるのかどうなのか、これは非常に難しいと思います、その点について言えばですね。そういった困難性もあるということ。

そして、借りるにしても買うにしても、それはそれなりの費用が当然発生いたします、仮の園舎を造るにしましても、いわゆるプレハブでは済みません。毎日毎日過ごす子どもたちの園舎というのは、仮に仮設であったとしても、何ていいでしょうか、軽易なものというか、いわゆるプレハブで過ごすわけにはいきませんので、それなりの強度や建築基準法や保育園に求められる様々な指針、基準、こういったものをクリアしていくためには、それ相当の費用がかかるというふうに私どもとしては考えてございます。

なお、明確な金額、ちょっと示すことはなかなか難しいかなと思っておりますが、一般的な金額で示すことはできるとは思いますけれども、どうしても土地を確保する、一定の面積の土地を確保するということがありますので、前提条件がかなりついてしまうのかなというふうに思います。

それから、このままこういった小金井市の、いわゆる市外からの流入人口が減ってしまうのではないかというお話でございます。小金井市、私としては、市長としては、子育て・子育て・教育環境の向上に全力を尽くすことが、小金井市の持続可能なまちにつながっていくと信じて、この間、様々な取組を行ってまいりました。まだまだもちろん、決して胸を張れるような状況ではありませんし、子育て中の方々から実に多様なアンケートや、また、満足度調査みたいなものを行っておりまして、子育ての分野に関する市民の皆様方の満足度は、総じてまだまだ低いと思っています。それを何としても向上していきたいと考えています。

そのためにも、これは単に市がお金だけかければいって問題でも、もちろんないと思います。保育はもちろん人が行っておりますし、そういう意味では、保育の質の向上というものを行っていかなければいけませんし、子育て・子育て・教育環境の向上というのは、まち全体の総合力だと思います。人と人とのつながり、子どもたちが伸び伸びと育つ環境、市民の皆様方の温かいご理解とご協力、小学校、中学校、保育園、幼稚園との連携、多様なことが求められていますが、切れ目のない、やっぱり支援というのが、小金井市はまだまだ足りないと思っております、こういった点に最大限努力してまいりたいと思います。

しかし、ちなみに、あくまでも参考であります、私が小金井の市長に就任したのは、

平成27年の12月です。そのときまでは、小金井市は、市民1人当たりの児童福祉費、保育園や子どもたちの子育て支援などに要する経費は、多摩26市の中でワーストワンでした。一番ビリです。しかし、多くの方々のご努力によりまして、私も担当職員共々頑張ってきましたが、5年間でこの児童1人当たり、もちろんこの予算だけがバロメーターじゃもちろんありません、しかし、ご参考までに申し上げますと、令和2年の決算で初めて小金井市は市民1人当たりの児童福祉費の経費が、初めて1位にはなりました。平成26年は1人当たり5万5,167円だったものが、令和2年は約2倍、10万円を超えまして、10万2,165円という状況で、これは私の政策判断です。これは実は、あまり容易なことではありませんで、どれも大変重要な予算なんですね、基本的には。でも、この分野に私は努力することが必要だというふうに考えてまいりました。そして、その姿勢は、これからも変わりません。

また、ちなみであります。令和2年度、東京都には全部で62の市区町村がありますが、初めて小金井市が人口増加率が1位になりました。もちろん、転出される方もいらっしゃるでしょう。新型コロナウイルス感染拡大の発生によって、都民の方々の仕事と住まいの意識がかなり変わっていくものかなとも思いますし、職住隣接じゃなくてもいい時代になりましたし、中には週1回、これからも会社に行けばよくて、テレワークなどで仕事ができるという人もいるかもしれません。これから都民の意識がいろいろと変化していく中であっても、小金井市は様々な施策の面で選ばれるまちになるように、全力で努力をしてみたいと思っております。

しかし、この公立保育園の分野につきましては、先ほど来、ご説明しておりますように、運営経費の面、施設の面、人材確保の面、様々な観点、また、現在、年少人口は令和7年、8年をピークに、もう減少傾向になってまいります。0歳児の出生も、コロナの影響も多少あるかもしれませんが、しかし、総じて、傾向としては、0歳児の人口も減少傾向でございます。そんな中、保育園の全総定員数は、来年4月で4,000名弱になります。民間保育園の方々にも大変ご努力いただきました。そういったことを総合的に判断いたしまして、私としては、この方針案をまとめさせていただいて、保護者の皆様方とこのような形で対話する機会をつくりながら、ご説明をさせていただいてるところでございます。

冒頭、私のほうからは以上でございます。

○平岡保育政策担当課長 では、私のほうからも若干、補足をさせていただきます。

組み立て方によっては、2園ではなくて1園だけでというようなご質問が冒頭あったかと思うんですけども、それについてなんですけれども、実は、民営化のときにも同様の検討をしていたことがあったんですが、実は公立保育園自体のサービスの拡充というのを、以前から宿題としていただいていたものがありました。それについて、やはり、どうしても必要なのが人の確保、人を増やさないといけないというところが一番の課題で、世の中の的に、なかなか公務員の数を増やしていくというのが難しい状況がありまして、今回、修正版のときに後ろに加えさせていただいたんですけども、特別支援保育の枠の増であるとか、地域支援というか、子育て支援の事業を拡充するであるとか、そういった部分に新たな人が必要になってきたりですとか、あとは、市内全体を見て回るための経験ある保育士の配置が必要になるなど、そういった人たちを集約をしていくために考えたときに、1園だけではちょっと難しい状況というのが現実的にあったというのは、民営化の検討の段階でありました。

こちらに出ている財政効果の中で、人が27人マイナスになるというふうになっていると思うんですけども、この方々については、長い間、この検討してきた中で、期限を決めさせていただいて、お仕事をさせていただいてる職員の方がある程度いらっしゃるんですね。その方々が、この人数の大半を占めているので、ですので、決して今いる職員があるときを境に別の、保育じゃない仕事をするということはないんですけども、そういった最初から期限を決められた方々の退職の時期というか、その期限のところ、1園分近く、こういう形で対応させていただくので、さらにサービスのほうを拡充していくためには、もう1園行わないと、どうしても難しいというところが、今回のこの2園という部分では、そういう側面もありましたので、一応、補足として申し上げさせていただきます。

○西岡市長 3点目の跡地の利用についてのご質問について、私のほうからお答えいたします。

冒頭、ご説明もさせていただいたところでございますが、まず、売却という考え方を持っておりません。そして、企業誘致をしているかということですが、一切してございません。今、方針案を固めている段階の中で、先にそういうこと固めるということは、一般的にはないと思いますし、全く考えてません。むしろ、これからこの用地につきましては、小金井の将来のために、どのような方策で有効に活用したほうがいいのかということを考えていきたいと思っています。

また、冒頭も申し上げましたけれども、まず先に、ここはもう売却するんだという考え

も持っておりません。どうやって小金井のために有効になるのか、これまで保育園として長い間、活用してきたという歴史も含めて、検討をさせていただきたいと考えてございます。以上です。

○三浦保育課長　じゃあ、よろしいですか。

次のご発言を希望される方は、挙手をお願いいたします。

女性の方、お願いできますか。

○参加者　今日のこの場を設けてくださり、ありがとうございました。

幾つかあるんですけども、まず、今の公立保育園に従事されている方、また、民間のほうで保育に関わられている方の保育の質について、どのぐらい評価をされているのでしょうか。かなり、公立保育園と民間とでは、中の方、先生方の接し方や、1日の回し方、環境面において、大きく違いがあるのではないかと考えています。なので、まず、どのぐらいことを保育の質として比較されて、今回、公立園の廃園に向かわれたのかということも1点あります。

あと、もう1点目が、10ページにある、もし廃園になった場合、小金井市全体の保育の質を上げるために、巡回保育支援チームを立ち上げるって話なんですけども、具体的にそれはどこまで今、お話しできる範囲で進まれているのか、その説明をお願いいたします。

というのも、自分もちょっと教育に関わってる身として、保育の質を保つというのは、毎日の薄皮を重ねていくような努力で行われていくものだと思います。その中で、巡回の先生方が、ぱっと行って、ここ直したほうがいいのか、こここうですよと言って、保育の質が上がるものではないのではないかとこのように思っています。実際に、私ども、上の2人の娘を民間に、下の子をわかたけさんのほうでお世話になっているんですけども、全くと言っていいほど違います。どちらも園の方にもすごくよくはされているんですけども、やはり、民間では行えないような保育が公立園、わかたけさんのほうでは行われているなというのを感じています。

わかたけ保育園で長く積み重ねられてきた保育の質というのは、きっと、くりのみやさくらなどでも積み重ねてきたものなので、それがなくなってしまうということは、まず、小金井市としての保育の質が一気に落ちてしまうのではないかとこのように感じています。

もう一つが、民間保育園は、園庭があるところが少ないです。ということは、今、

かなり駅前の方の、増えていると思うんですけども、南口にももうすぐできますよね、また新しく。公園の取り合いになっています。一つの保育園がゆっくりと遊べるような場所はなく、子どもたちがよくうろうろ、あちこちの公園を、言い方が悪いですけど、たらい回しになっているような状況も、私や地域に長く住んでいる者として、不安に思っている人がいるのも事実です。なので、民間を誘致をすることだけが保育の質を上げるということにはつながらないのではないかというのが、私としての感想としてあります。

以上です。

○三浦保育課長 大きく質問、3点ですかね。

○参加者 はい。

○西岡市長 ご意見、ご質問いただきまして、ありがとうございます。まず、保育の質についてです。

まず、冒頭、前段のご質問者の方もそうですが、本市の公立保育園につきまして、一定のご評価をいただきまして、ありがとうございます。感謝を申し上げます。

この保育の質、極めて重要であると思っております。小金井市は、公立保育園の運営、設置者といたしまして、修正案の中にも書いてございますが、小金井市が果たすべき役割ということで、4点について明記をさせていただき、公立保育園は今後とも存続いたしますので、この役割をしっかりと果たしていくことが、まず大切だと思っております。

その上で、この小金井市すこやか保育ビジョンというものを初めて策定をさせていただきました。今年の3月です。そして、小金井市保育の質のガイドライン、こちらも今年の3月に初めて作成いたしました。実に1年数か月、たしか二十数回にわたる会議を経て、専門家の方、保育関係者の方、大勢の関係者の方々に大変ご協議いただいて、初めてつくり上げたものです。これまで存在しませんでした。

これは、公立保育園であっても、民間保育園であっても、共通の横串と言えるような、そして、旗印とさせていただくような理念、目標、実践方法などについて、まとめさせていただいたものです。保育の質の維持・向上、おっしゃるように、これは非常に大きな課題、重要な課題、そして、おっしゃるように、何か一つのことだけやれば、それでそうなるものでは、もちろんありません。毎日毎日の実践です。そして、一方、民間保育園には、それぞれに保育理念というものがあまして、それは東京都の児童福祉審議会の厳しいチェックを受けています。また、定期的な東京都の監査や、第三者評価委員

会などの評価を受けながら、日々の保育を行っていただいているという状況でございます。

点数をつけて何か評価をするということは、なかなか難しいとは思いますが、そういった第三者のチェック、東京都の様々な監査、もちろん、利用されている住民の方々の声、こういったことを踏まえながら、総合的に質の向上に努めていくということが求められています。

この、皆様ご覧になってると思いますが、小金井市保育すこやかビジョンの中には、今後の施策の方向性というところがございます、主に6点のことを書かせていただいております。保育の質の維持・向上に向けてということで、保育の質の維持・向上に当たっては、各現場で目の前の実際の子どもの姿を基に、保育実践をよりよいものにしていく取組が日常的、継続的に行われることが重要です。小金井市は、子どもの最善の利益を保障するため、保育現場の保育者一人一人の自らの資質や専門性の向上を図る取組を支援するとともに、小金井市として、次の取組を推進することで、地域全体の保育の質の維持・向上を図るといたしました。

その大きな大項目6点は、保育の質のガイドラインの活用、2点目が、保育者の研修、3点目が、ご指摘をいただきました、各種評価の実施、4点目が、保育士の確保、5点目が、保育分野におけるネットワークづくり、6点目が、幼保小の連携と書かせていただきました。評価のところには、このように明記してございまして「福祉サービス第三者評価の受審費用の助成を継続し、外部評価の受審を促します。これにより、統一的な基準による客観的な評価を受け、その評価結果を保護者にも積極的に公表することで、各保育施設での保育の質の維持・向上を促進します。また、国の「保育所における自己評価ガイドライン」の積極的な活用を推進します。」と明記させていただきました。

こういった取組を推進するためにも、新しく、今まで存在しなかった、保育巡回チームというものを、まさに、子ども家庭部保育課の中につくり上げていくと。このチームの要員は、現状のところ、3人から5人程度を想定してございますが、小金井市の公立保育園で様々な経験を積んでこられた皆様方にぜひ担っていただきたいと、私は考えております。今現時点で公表できるところについては、担当課長からその内容などについて、ご答弁をさせていただきたいと存じます。

また、園庭のご指摘がありました。そのことは、私も十分、理解しております。しかし、一方で、駅前の保育園を希望するという方が大変多いという現状もございます。私は、保育園というのは、どの保育園に行くのかは、それは保護者の方々のご判断ですし、

多様な選択肢を市としてはお示しできるように努めてきたつもりでありますし、これからも、それが大事だと思います。施設のこと、保育理念のこと、保育環境のこと、立地条件、様々な多様な視点で保育園が選ばれていると思います。

一方、駅前保育園を開設した場合は、どうしても園庭のある広い土地を確保することが非常に難しいという現状もありますが、しかし、もちろん、園庭の存在、意義は十分、私も分かっております。そういった関係で、日常のお散歩というものも、子どもたちの成長にはもちろん必要ではありますし、最寄りの公園出かけていながら、年齢に応じた様々な保育が行われているとは存じますが、現状、多くの方々がいろいろな公園を回ってらっしゃることや、時にその公園には多くの園児たちが集中してしまうような時間帯があるということは、私も十分理解しております。そういった子どもたちの環境を改善していけるような、今後の長期的なまちづくりというものも必要であるというふうには認識しておりますが、常に現状ある地域資源を最大限に有効しながら、民間保育園の方々も含めて、今の小金井のまちに適合した、子どもたちのための施設の有効利用、有効活用、こういったものに努めてまいりたいと考えておるところでございます。

冒頭、私からは以上でございます。

○平岡保育政策担当課長 では、すみません、私のほうからも若干、補足をさせていただきます。

まず、保育の質のことについてのお問合せがあったかと思いますが、やはり、保育の質というのは、なかなか一概に評価するのが難しいというところは、私たちとしても思っていますが、公立にもよさがあり、民間には民間のよさがあるというところはあるかなというふうに思っています。

今回の、先ほど市長からも紹介させていただきました、保育の質に係る検討を、学識の方も含めて行ったときにも、なかなか定義づけは難しいというような、そういう結論に小金井の中ではなりました。一般的に言われるものとして、人と環境と物と、その三要素というふうに言われるところはあるかなと思うんですけども、なかなか一義的にそれを決めつけてしまうのはどうかという意見もありまして、なかなかやはり、質というのは評価がしづらいという認識は持っています。

そういった中で、先ほど市長からもありましたとおり、保育の質という面と、保護者の方の保育園選びにおけるニーズというのが、全て一致するかどうかというもなかなか難しいところで、そういった中では、やはり駅前のニーズがどうしても高いところもあって、駅前のほうで保育園の整備ができることがあれば、それに対応してきたという経

過は確かにあります。

もう一つ、お話がありました、巡回支援チームなんですけれども、基本的には、公立保育園の経験者を充てていきたいというふうに思っています、いろいろこの間の説明会でもいろんなご要望、ご意見いただいているんですが、まずは、横の連携と申しますか、そういったところから始めていきたいというふうに思っています、いきなり保育の仕方の支援をするために指導に入るとか、チェックに入るといよりは、横のつながりをまずは進めていければというふうに思っています。そういった面では、特に小規模の保育園さんとか、認可外の保育園さんの中でも、東京都のところで指定をしている認証保育所というのがあるんですが、そういったところとの定期的な会合なども小金井市は特に持ってはいないんですね。ですので、まずは、市内の保育園同士の連携であるとか、そういうところから始めていければというふうに思っています。

一方で、ほかの説明会で、やはり質を担保するために、きちっとチェックをすべきであって、認可からきちんとやってほしいというような、そういうご意見もいただいているんですが、新たな取組ですので、すぐに一足飛びに何かができるというふうには考えておりません、小金井の今後がよりよくなっていくための、経験ある人材を活用しての取組ということになりますので、こちらとして、最初のうちに行いたいと考えているのは、今申し上げたところあたりかなというふうには思っております。

以上です。

○三浦保育課長 いかがでしょう。

○参加者 ちょっと付け足してもいいですか。

○三浦保育課長 はい、どうぞ。

○参加者 まず、駅前の方が、やはり保育園は人気ということも重々承知をしてるんですけど、一方で、公立5園の倍率、毎年高いですよ、定員割れることないですよ。民間のほうに、保育園に入れてたとしても、途中で公立が空いていたら入る方、多いですよ。それってきつと、そこに保育の質って表れてきてるんじゃないのかなというふうに感じています。そのところ、重々承知をしますというふうに言いつつも、数値面でしか市として書かれていないんじゃないかというふうに思っています。

というのと、もう一つ、さっきお話を聞いて、巡回支援チームのことを聞いて、少し安心をしました。というのと、一方で、やはり、民間保育園でアレルギー持ちのお子さん断られているとか、エピペン持ちの方が、ちょっとうちでは見られませんというふ

うに言われたりとか、障がいがあるお子さんが、うちでは見られませんというふうに言われたりとか、そういうふうな緊急受入先として公立の保育園がそこを満たしてきた、受皿となってきたというところもあると思うんですね。

それがもし、これが2園になってしまった場合、民間に対して小金井市がアレルギーがあるお子さんも受け入れてくださいというふうな、強制的な指示を出すことはできるのでしょうか。また、それも緊急性のあるご家庭だったり、支援が必要なお子さんだったり、加配が必要なお子さんだったり、どうしても近くの保育園に入れたらいいなってときに、入れてくださいとして、保育園に対して市として指示をすることができるのでしょうかというところが少し不安に思っています。

元気な子たちだけが保育園に通っているわけでありません。いろんな家庭の方がいるなどいうのを、市に長く住んでいても思っています。なので、そういうふうな、なかなか普段ヘルプの出せないご家庭に対して、どういうふうに市として守っていくのかというところもお伺いできればと思っています。お願いします。

○平岡保育政策担当課長 それでは、まず、質の把握のところのお話なんですけれども、こちらのほうとしましては、別に公立の質が低いと言ってるわけでは全然ないんですけれども、公立から民間に転園をなされる方もいらっしゃいますし、公立以外のところに転園されてというような例もありますので、おっしゃってるお気持ちは、こちらでも理解するところなんですけど、転園の中でも様々な転園があるというところが、まずあります。

それから、民間さんのところで、体制等が取れなくて、なかなか受け入れにくいというようなことが起きてるというお話なんですけれども、これについては、市のほうで公立保育園の数が変わろうが変わるまいが、やはりこれだけ園の数が増えてますので、受入れについては、今よりも積極的に受けていただくように、市のほうでやはりお願いをしていく必要はあるかなというふうには思っています。

ただ、それぞれの園の体制にもよりますので、強制的にこのお子さんを受けてくださいというのは、なかなか難しいですし、公立であったとしても、すぐに体制を組んで受けられないというような事例も過去にありましたので、ちょっと幅のある話になってしまうかもしれませんが、ちょっと制度的に、強制的に行うのは難しいというところは事実ですけれども、今よりも、より受入れをしていただくような形のアプローチは、今回の公立の数のお話とは全然別のところで、この話がなかったとしても、これだけ民間が増えていけば、市としてやっていかなければいけないことだというふうには思っており

ます。

あと、もう一つ、民間保育園さんのほうなんですけれども、特別な配慮が必要なお子さんの受入れについても、昨年度の実績で18園ほど、受け入れている例は実際あります。あと、受入れの仕方について、申し上げると細かくなってしまうんですけれども、配慮が必要な内容によって、その担当の人をつけないでクラスで見っていくという受け方をされると、ちょっと全部把握はできないんですが、そういう受け方をされてる例もあるかなというふうに思っています。

あとは、ちょっとご家庭の事情で困難な、難しいご家庭でというようなところについては、ちょっとあまり詳しくお話できるようなものではないんですが、公立保育園だけしか受けてないということはないということはお伝えできるかなと思います。

○西岡市長      ご質問、ご意見いただきまして、ありがとうございます。また、様々ご懸念、ご不安、率直な思いもお聞かせいただきまして、ありがとうございます。

私といたしましても、ご家庭もお子様も様々でございますので、多様な保育ニーズに応えていく、これがもうとても大切だと思っています。そのための土台となるのが、今、作成いたしました、このすこやかという計画と質のガイドラインです。

そして、総じて、民間の保育園についてのご懸念もあるのかなというふうに聞かせていただきましたけれども、大切なことは、やはり、保育士の方々がしっかり定着をしていただくことが大切だと思っています。

そのための基本的な対応といたしまして、私、市長に就任してから、民間の保育園の方々の処遇の改善ということには、最大限努力してきました。いち早く、東京都の様々な補助事業に手を挙げて、特に、例えばですけども、毎月毎月の宿舍の借り上げを補助する、上限8万2,000円まで補助するような制度に小金井市も申込み、申請をしたり、それを実際に運用していただいたり、小金井という地に民間保育園を造っていただいて、そこで働く保育所の方々がしっかりと定着をしていただくということも極めて重要と考えまして、土台となる部分ですから、そういったところに今、全力で努めてきたところ です。

ここで、この保育の質の維持・向上に向けた取組を進めていく上では、今、ご指摘いただいている、巡回チームの存在というのが非常に大切だと思っております、これまでできなかったような横のつながり、あるいは、公立と民間とのいろんな連携、横のつながり、小学校とのつながり、こういった多様なネットワークづくりをしていながら、

民間保育園の皆様方の独自の保育理念に基づいて一生懸命、本当に毎日毎日、一生懸命努力していただいておりますが、さらに、市全体の質の向上につながっていくようなこと、ここに取り組むのが市の役割だと思っておりますので、その役割を果たす一つの具体的な例といたしまして、この巡回チームというものを、これを何としても設置をしまいたい。そのためにも、この段階的な縮小方針によって、対応可能となる方策もごございますので、この方策を最大限に活用させていただきたいと考えたところでございます。

○三浦保育課長 一回ちょっと次の方がもしいらっしゃれば。

次の方、どなたかいらっしゃいますか。どうぞ、細かいことでも結構でございます。

じゃあ、最前列、男性の方。すみません、着席のままのご発言で結構でございます。

○参加者 どうも、●●●と申します。

市長さんが、先ほど苦渋の決断というふうにおっしゃったんですけど、冒頭ですね。それで、突然こういう計画が出てんですけども、それで、私たち、今、子どもたちが通ってるから、一応、当事者としてこうやって説明会を受けるんですけども、私たちの子どもが卒園した後に廃園というような話になって、私としては、もともと廃園自体に反対だし、自分たちの子どもが卒園した後だからというのじゃなく、何ていうんですかね、そういう、おたくたちにはあんまり迷惑かからないからいいじゃないかって持ちかけられてるようで、私としてはちょっとすごく嫌で、6回、全部で説明会をやられるということですけども、この6回の説明会というのは、こういう廃園計画、そういう意思形成のプロセスの中で、どういうふうに位置づけられてるのかというのをまず知りたいんです。

反対の声もあるし、疑問の声もあるし、あと、市の側の資料が出てきて、それを私どももちょっと仕事の中で、ちょっと斜め読みしながら見ている状況なので、分析もできていない中で、こうやって説明会、今日参加しましたけども。かなりこちらも、もう本当、ちょっと取りあえず思いついたことを質問させてもらうという形なので、こういう感じでやった説明会でもって、市議会のほうに父母の方への説明が終わったというような、もし使われ方をされるんだったら、僕はちょっと納得がいかないし。私たちの子どもは今、保育園に通っていますので当事者かもしれませんが、本当の当事者というのは、これから生まれてくる、西岡さんところも今度生まれてこられるそうで、おめでとうございます。これから生まれてくるお子さんとか、これから小金井にきて、子育て

をしようと考えている方が当事者なんですよ、本当の意味でのね。そういうところでいうと、どういうふうに、ごめんなさい、説明するというか理解を得るのかというのと、あと、私としては、これまでいろんな、運協とかいろんな場で、民間委託のことについてけんけんがくがく話し合ってきたわけで、それと同じぐらい、例えば、学識者を挟んで、そういった方も含めた上での科学的な検証をしていただかないと、私ども、市の方がそういう形で、市の財政事情とかを持ってこられたときに、心情的には反対ですし、ただ、それについての材料というのを、そちらが出してくれないことには、これは反論ができないわけで。時間をかけて、学識者の方を交えた議論をしていただきたいというのが2点目です。

あと、最初、市長のご発言でというか、この問題というのは、市長も苦渋の決断と言われましたけど、私どももすごく苦しいんです。本音で言えば、去年ですかね、市長選挙とか市議選があったのは、そういう場で、もっと民意で聞かなければいけない場なんじゃないかなと思って。ちょっと最初の話に戻りますけど、こういう形で6回やりました、市議会のほうには、ほかの方にはそういった話をしましたというのは、すごく苦しいし、あと、今日のやつだって、一応、定員100人までという話でしたけども、何か結局こういうコロナ禍であるし、そちらも文書のほうに書いてありました。コロナ禍のこういうときに持ち出して申し訳ないけどとありましたけど、やっぱり時期も相まって、聞ける機会がないので、まだ不十分さというのは絶対あると思うんですよ。意思形成として、まだ不十分だと思われませんか、市長ね、ちょっとそれを聞きたいのと。

あと、ごめんなさい、最初のほうの市長の挨拶で、保育園よりも庁舎建設に充てるのではというので、市長のお話がちょっと微妙な言い回しだったんですけども、今回の財政効果については、庁舎計画について、資金計画はいつさい組み込まれてないと。資金計画というお話でなされたんですけども、でもあれですよ、財布は市の税金ですよ、市役所建設も、保育所のやつもそうですよね。だから、すみません、あと、市庁舎建設115億円ということなんですけども、これは国からの補助とかは出るんですか。私ども、保育園に関しては都からとか国から補助が出ないから、大変厳しい厳しいと言うのに、何か市庁舎についてもし、出てもあれですけど、出ないのに115億円という話というのは、ちょっと、少し、えっというふうに思います。

それと、あと、課長さんが最初の方の質問のときに、小・中学校の老朽化については放置しないでしょと。保育園について、老朽化でじゃあ潰しますというのはないでし

よって話を、大要そういうことなんですけど。そうしたときに、小・中学校は義務教育で、保育については、私立も公立もありますのでという話でしたけど。でも、公立で建てたんだったら、公立で責任を持って、それは建て替えることなので、公立として、小・中学校、公立で建てられたら、もちろん建て替えなきゃいけないし、公立で保育所を建てたのなら建てなきゃいけないし、それを、これ50年間ずっとやってきたって、そのまんまというのはどうだったんですかね。ちょっと、少し、答えてるようで答えてない部分がありますので、ちょっとお答え願いたいなと思います。すみません、長くなりました。

このときも、有識者を交えた、学識者を交えたりして、時間をかけて、この問題についてはやっていただきたい。いろいろ、保育の質向上と言いますが、わかたけ保育園はじめ、小金井市の市立保育園は、市民にとっての無形の財産なんですよね。そういう経済効果とかで図れない、たくさんOBもありますし、卒園者もいますし、その中ですごく関わってきた方もいらっしゃると思いますので、私どもがこういった2時間ぐらいで一応のアリバイづくりに使われるのは、それはちょっと私としては我慢ならないことなので、よろしくをお願いします。

○三浦保育課長　ご質問をまとめると、4点ぐらいですかね、ご答弁のほうお願いできますか。

○西岡市長　様々なご意見、思いやご質問いただきまして、ありがとうございます。

まず、冒頭のところです、私どもがあたかも在園児の皆様は卒園はできるんだから、いいではないかというような申しつけをしてきてるとしか思えない、そういう思いや、ご質問です。私にとりましても、今般は、本当に苦しい決断であることに変わりはありません。好きこのんでこのような方針案をまとめたわけではありません。将来のために今何ができるか、何が必要かということを実際に考えてきたところでもあります。

そしてこの件は、もう非常に長い間、平成9年くらいからですから、もう約25年間くらい、四半世紀にわたって、小金井の公立保育園の在り方というのは、その時々々の時代において議論や協議されてきましたけれども、今そういった状況です。

それから、近隣の多摩地域におきましても、これは事実ベースですが、公立園の数は相当減少はして、民間保育園も増えてきてる。多摩地域の中においても、4市においては公立保育園が存在していないという自治体も一方であります。小金井市は、公立の保育園を存続していくという方針案です。そして、公立保育園で様々な経験をしていただいた方々に、市全体の保育の質の向上に努めていただきたい、そういう意味で、

市全体のことを考えた上での決断であります。何よりも、子どもたちの安心・安全を考えた上での決断でもございます。したがって、今ご指摘、●●●様からいただいたような、そういう思いでこの席に臨んでいるわけでは、決してございません。

それから、今般の説明会、意思形成の中でのプロセスの位置づけなどについて問われてございます。このアライズづくりというようなおっしゃられ方をしましたけれども、そういう考えもありません。必要であるから、やっております。この説明会は、必要なことでありますので、皆様方と直接対面し、いろいろお声を聞きながら、私たちの考え方も開示しながら、お伝えしながら、これは大事なことだと、大切な機会であると考えておまして、臨ませていただきました。過去4回の席上でも、いろいろなご意見いただいております。たった1回で終わらせるのかとか、いろいろ複数回やるべきだであるとか、いろいろな多様なご意見をいただいておりますが、まずは6回やらせていただいて、そこでお寄せいただいた様々なご意見や声というものを、我々もしっかり持ち帰り、改善できるところ、反映できるところ、やらなければいけないこと、こういったことはしっかり対応してまいりたいと考えております。1回だけやって、もうあとは一切何の声も聞かないというつもりはございません。

それから、あまりにも唐突なので、十分な資料の読み込みも分析もできていないということや、これから生まれてくる子どもたちが当事者であるのだから、そういった人たちのために考えるべきじゃないかということなどなどいただきました。

まず、大変唐突であったといいましょうか、説明会を開催する10日ぐらい前にこの修正案をお送りしているかと存じます。大変申し訳ございません、その点はおわびを申し上げます。この間、長い間、たしか平成25年、運協というものを設置させていただいて、保護者の代表者の方々と民営化のことや、また、日常の保育のことや、保育体制のこと、様々な保育施設の多面にわたって協議を積み重ねてまいりました。なかなか全員の皆様方とというのが、皆様方の様々なご予定のあるところ、我々としては、その運営協議会という代表者の方々や、また、5園の保護者会の場など、そういった機会を通じて、この間、保育園の在り方については真摯にご協議をさせていただき、様々なご要望にも何とか応えられるように努力はしてきたつもりです。その姿勢は、これからも変わりません。

しかし、児童福祉審議会、運協、保育検討協議会、保育計画策定委員会などなど、実に長い間にわたって、専門家の方々と交えて、小金井の保育全体のことについて議論し

てまいりました。小金井市は、公立保育園の運営主体でありますので、これまでに重ねてきた、長い間重ねてきた協議の結果、今の社会情勢、これからの将来の動向、人口、施設、安心・安全、人材の確保、国や東京都の支援状況、公立と民間との様々な施策の転換、厳しい財政状況、こういったことを総合的に判断いたしまして、今般の段階的な縮小。これは、これまで民営化を議論してきた中で、やはり、急に、引継ぎの期間はあ  
るにせよ、急激に保育士さんが替わってしまうこと、運営主体が替わってしまうこと  
に対するご不安の声というのをずっと聞いてまいりました。そういったことも踏まえま  
して、将来を見据えて、今般、段階的縮小から廃園というのが、小金井市としては適切な  
方針案だというふうに判断をさせていただいたところです。

議論は相当行ってまいりました。専門家を入れて、さらにもっと議論をとということ  
ありますが、今置かれてる施設の状況、保育定員数の増加、そういったことを考えてみ  
ましても、私どもとしては、この段階で、今お示しをさせていただいている方針案の  
スケジュールというもので進めていくことが、保育全体の向上にもつながっていくと考  
えておりますし、また、先ほど申し上げましたように、12ページに書かれてございま  
す、どうしても市として子どもたちのために、これから子どもたちのために、12  
ページに掲げてございませうような保育サービスの拡充策、今まで小金井市がなかなか  
十分対応してこられなかったようなことや新しい取組に、ぜひ取り組ませていただ  
きたいという姿勢で本日は臨ませていただいております。

私の市長選挙のことが問われておりますが、私の市長選挙は2年前になりまして、  
その段階では、まだ、民営化についての議論の渦中にあつたということ、それが保  
育計画の策定の途中でありまして、あの当時は保育計画の策定を最優先に取り組  
むと、議会の場でも明言してまいりましたので、この保育計画、質のガイドライン  
の策定に取り組むことを主眼として、私としては考えて臨ませていただきました。  
なお、1期目のときにも、保育園関係者の方々の主催する公開討論会みたいなもの  
がありまして、これは6年ほど前ですけれども、その時点におきまして、私は公  
立保育園につきましても、やはり公立直営のまま、現状のまま維持をしていく  
という考え方だけに固執してると言いましょ  
うか、それが私の方針ということは述べておりませんで、公立保育園の今後の  
在り方については、全体を見ながらの見直しは当然必要であるということは、  
はっきりと申し上げてまいりましたし、民営化の検討も当然必要であるとい  
うことは、はっきりと申し上げさせていただいて、その上で、市長就任以来、  
この約6年間にわたって、公立保

育園の在り方、そして質の向上について、継続して議論を積み重ねてきたというふう  
に理解をしてございます。

庁舎建設についてでございます。庁舎建設の財源には、ここにお示ししてござい  
ますような財政効果というものを、庁舎の建設のお金に必要な部分に組み入れてい  
くという考え方は持っておりません。同じ税金ではないかというご指摘をいただきま  
したけれども、そうではなくて、この公立保育園の段階的縮小によってもたらされ  
る財政効果というものは、子育て・教育環境の向上、充実に私としては充ててま  
いりたいと思っております。これは、予算の全体的な配分、予算編成の過程の中  
で積み重ねてきたものでございます。市長としては、その方針に揺るぎはありませ  
ん。庁舎建設につきましては、基金や、それから起債や、それから、一部でありま  
すが補助制度がありますので、例えば自家発電を造った際の補助制度だったりとか  
、活用できる補助制度は十分活用いたしますが、主に起債や、これまで蓄積して  
きた庁舎建設基金や地域福祉基金、それから第二庁舎を返還しますので、その返還  
に伴って発生するものなど、総合的に組み合わせて庁舎建設をしてまいりたい。  
小金井市の場合は単なる庁舎ではなくて、新しい庁舎と福祉会館という、既に返還  
してなくなってしまっていますが、複合施設、庁舎と福祉会館の複合施設という、  
小金井市が市民の方々に新しい防災の拠点、行政の拠点、福祉の拠点を私はつく  
る必要があるということで、この間、様々な取組を進めてまいりました。ご承知  
のように、庁舎は、これはもう市政運営には欠かすことができません。議場もあ  
ります、市民サービスの拠点ともなります、福祉会館と同じ建物の中で、住民福祉  
の増進に向けた多様な施策を展開してまいりたいと思っております。

今、庁舎は、こちらでも深刻な老朽化、本庁舎はもう築55年目、西庁舎も60年  
近く、そして、第二庁舎は、これ借りたまままでございまして、年間に2億4,000  
万円も賃料、借入金をお支払いしてございまして、もう間もなく28年目を迎えて  
いこうという状況です。また、分散しておりますので、なかなか効率的な市政運  
営を行っていく上では課題がある、こういったものを解消していくということは、  
長年の課題であります。こちらにつきましては、この財源の、公立保育園の分野  
で発生するような財源をこうした建設費に充てていくという考えは全く持って  
おりません。

私からの回答は以上でございます。

○平岡保育政策担当課長 では、私のほうから、先ほどお話いただいた、学校と  
保育園の違いの件の説明がちょっと不十分だったというところで、改めてお話を  
させていただきますが、

小・中学校については義務教育ということになりますので、私もちょっと法律云々というところまで今、精緻にお話できないんですけども、公立の小学校を私立の小学校に切り替えるというのは、制度上できないというふうに思います。一方で、保育園については、公立であっても、民間であっても、同じ認可の保育園ということとなりますので、そういった制度の違いがあつて、市のほうでは、以前は民営化、その前は民間委託というようなものも制度上存在してしまつて、検討することができたという状況となっています。ですので、民間保育園も公立保育園も同じ保育園というカテゴリーの中にありますので、学校のほうですとそうはいきませんので、公立の小学校をなくしてしまつて民間の小学校にするであるとか、民間の小学校で子どもさんの必要な数が足りているから公立の小学校を減らすであるとか、そういうような制度にはなっていないことから、制度上異なるので、小・中学校については、おっしゃるとおり、小・中学校を建て替えるという選択以外はないのではないのでしょうかというふうにお答えをさせていただいたというところでございます。

以上です。

○三浦保育課長 答弁のほうが少し長いみたいですので、短めをお願いいたします。すみません。

予定時間のほうがあと10分程度でございますけれども、あとご質問予定されてる方、何人ぐらい、いらっしゃいますか。

1巡目の方をちょっと優先させていただきたいと思いますが、もしいらっしゃらなければ、2巡目の男性の方に行きますけれども、1巡目、よろしいですか。

じゃあ、女性の方、すみません、男性の方、すみません。

○参加者 じゃあ、ちょっと質問します。

資料の4ページ、5ページのところになると思いますが、公立保育園の運営方針の見直し検討について、20年以上の月日を費やしていただいたそうで、公立保育園についての重要性なども考えていただいていると思うんですが、20年以上の月日を費やしている間に、公立保育園を1校、建てていると思います。けやき保育園がそれにあたると思うんですが、これについて、ではなぜ、公立保育園を建てられたのでしょうか。

○三浦保育課長 けやき保育園の話です。

○平岡保育政策担当課長 けやき保育園の建て替えのところかなと思っております。けやき保育園自体は、区画整理事業がありまして、もともとその前からできているので、最初にできたのは昭和50年というところなんです。それが区画整理に伴って、場所を移すことになりました。

て、それで場所を移して建て替えたというのが経過となっています。このとき確かに、けやき保育園自体を委託するという話は一度出たかなと思っているんですが、最終的には、けやき保育園は委託はしなかったんですけども、当時ありました、ピノキオ幼児園という施設がありまして、そちらを、今でいう、きらりという形に施設の形態自体も含めて変えて、委託をすることになったと、そういう状況だったかなと思っています。大丈夫ですか、分かりづらいですか。

○参加者           じゃあ、同じような形で、今、廃園を検討されている3園というのは、見直しはしていただけないんですか。

○平岡保育政策担当課長   当時は待機児童の課題も確かにありましたけれども、それよりもまず移転の期限が決まっていた状況もありましたので、そういった中で、当時はまだ、行うとしても委託という考え方の中でしたので、委託するという範囲の中で検討した結果、けやき保育園については、委託せずに直営のままでという結論にその当時は至ったということになります。ただ、そのときにそのようなお話が出ていたという時点で、公立保育園においても、5園をずっと維持していくのは難しいという考え方が、市の中ではずっとあったのは事実でありますので、その後も、先ほどお話しさせていただいた、保育検討協議会なども立ち上げながら検討していただいて、公立保育園については、市の今の考えとしては、5園ではなくて、最終的に2園にさせていただきたいという、このような案をつくらせていただいたというような形となります。

○三浦保育課長   よろしいですか、すみません。

1巡目の方、よろしいですか。よろしいですかね。

では、すみません、チェックの2巡目の方、お願いいたします。

○参加者           すみません、2巡目になります。機会をいただいて、ありがとうございます。

今の方の話に関連して、付け加えさせていただきたく、ただ、市がどこまで関与しているか分かりませんが、ご意見だけ述べさせていただきます。

わかたけ保育園に関して言えば、前原3丁目のところで新たな区画整理が行われているはずですが。それは既に説明会を開かれていると思うんですけども、例えば、そういったところの場所を、先ほどのけやきさんみたいな形で、けやきさんも区画整理の上で移転するというのであれば、例えば、そういったところに新たな施設を、期間、一時的ですけども、保育園を建てて、わかたけさんが仮に移る、例えば移築をすることもできたのではないかと思います。新しいとこ、プレハブという話もありましたけども、建て

て、新しい園舎を今のわかたけで造り直し、また戻ってくる、それも可能だったのではないか。ただ、そこは、ちょっと私も市の方針で分かりませんので、あくまでも可能性の話です。

ただ、そういうことを考えると、公立保育園に対する市の考え方というところに疑問があります。つまり、20年かけて話をしていたにもかかわらず、結局、廃園という手しかなかった、それは、20年もあれば、恐らく財源を確保することができたのではないのでしょうか。例えば、私は教育関係者ですけれども、教育関係じゃなくても、限られた予算の中で子どもたちのために何をするかを考えます。それは、企業さんでも同じだと思います。企業も、その企業の利益を考えて、何がベストかという判断をした選択手段をやっていくはずです。ただ、今回の小金井市の考え方を、私たちがこれを見たとき考えたのは、じゃあ、公立保育園を民間にしているの、つまり、市としてはそういう選択をしたということは、公立保育園、軽視していると思われると思います。もしも、公立保育園を、私たち市民の期待があり、先ほど無形の文化というものもありましたけれども、それを大事にしているのであれば、20年かけて何とか維持していく方針があったはずです。でも、そうではなかったというのが非常に残念です。

そして、何より、将来的なビジョンという話、それから切れ目ない支援という話を市長は何度もおっしゃっていますが、じゃあ、今回、二つの公立保育園を廃園して、民間のほうに委託するということによって、子どもたち、これから小金井で育っていく子どもたちにどのようなメリットがあるのか、恐らくそのメリットがあるからこそ、今回の苦渋の決断をされたと思うんですが、それはどのようなメリットが子どもたちにあるのでしょうか、そこをお伺いしたいです。お願いします。

○三浦保育課長 ご質問とすると、3点ですかね。

ちょっと区画整理のところは、誰がいけますか。

○参加者 けやきについては、東小金井駅の開発に伴う区画整理ですよね。それとちょっとごっちゃになっているかなと思うんですけど、今、平代坂の周りの畑が手放されたりとか、大きな土地、50軒、今度建てられますよね。というふうに、小金井市のあちこちで、やはり畑、どんどん減っています。土地区画整理になって売られています。その土地を市が一時的に買って、例えば仮校舎を建てて、そこで、プレハブだって、ちゃんと強化してあります。私も教育関係者ですけど、プレハブ校舎で小学生、ちゃんと教えていましたので、安全性保たれてます。そういうところで、ちゃんと一時的に子どもたちを見

て、新しい校舎建てることもできるんじゃないかというのが、今の話です。付け加え終わります。

○三浦保育課長 ちょっと区画整理事業と民地の宅地開発と、一緒の質問になっちゃってるんで、そこを部長、整理できますか。

○大澤子ども家庭部長 まず、区画整理事業につきましては、東小金井の北口で実施をしております。いわゆる、皆様方の土地を出していただいて、道路を造って、形を形状していくというのが土地区画整理事業です。

けやき保育園のときは、いわゆる道路が広くなるという形で、要は、今の保育園とか幼稚園がこのままでは、引っかかってしまうという形になります。ですので、その形で運営ができないというところがありましたので、運営する場所を、その場所じゃなく違う場所に移すというふうな形の、いわゆる、今、南口でやっている再開発事業と同じように、一つの都市計画の事業というような形の手法でございます。

今、この辺で農地が減ってる形で、民間さんに売却というところで、そちらのほうに関しては、民の普通の、いわゆる都市計画事業というふうな形ではなくて、普通の売買契約というふうな形になろうかなと思っています。

その民間で持ってる土地を、市が土地を持ってるわけではないので、基本的には、仮に、今、住宅とかの契約が立っているかもしれませんが、そういうお話があれば、基本的に公有財産という形、ここ大きな土地がある場合、市、買いますかという調査があるんですね。ただ、保育園とか、ある程度になりますと平米数とかの問題もあり、当然価格という形で、その時点でそのお金を用意をしなければいけないというふうな形の問題になります。ですから、なかなか一遍に、言い方は変ですけど、何億とか何百億とか、状況によってそういうような形になりますので、ここの予算の算段が、我々は購入したい、例えば借りる場合にはそういう金額が妥当なのか。また、民間さんもどの程度くらいの金額になるのかというところの、いわゆる交渉みたいなところ、そういったものを含めて、一旦、この辺の土地を使いませんかという情報は来るんですけども、なかなかこちらとしても手は挙げづらい環境もあり得るという形で、すみません、まず冒頭だけご説明です。

ただ、おっしゃってる意味としては、例えば、わかたけ保育園で建てるというふうな形になれば、民地を借りて建てて、もしかしたら、ここに造って、今使っているところどうするかというのは、また一つの選択としてはあるとは思っていますが。あとは、仮

に、もし園庭に建ててしまうと、当然、お子さんが外で遊べなくなったり、工事してる最中にできるかというような形の問題とかも、我々としても認識はしてる状況で、その手法の一つとして、そういうような考え方はあり得るところは、状況的には分かるところは認識しております。

ですので、取りあえずご案内の、そういう民間のそういうふうなものというところは、我々としてもそこはそこで把握はしていきたいというふうな形でご答弁させていただきます。

○参加者 ありがとうございます。学校現場としてもやっぱり建て替えは当然あって……。

○三浦保育課長 ちょっと答弁さしあげますので、ちょっと待ってくださいね。

2問目、3問目、答弁お願いします。

○平岡保育政策担当課長 すみません、入れ替わり立ち替わりで申し訳ないです。

なので、駅を中心とした開発の手法が、再開発だったり区画整理だったりというのがあって、けやき保育園はそこに引っかかっていたと。わかたけ保育園については、農地など、土地を多く持っていた個人の方が売却等を行った結果、ああいう状態になったので、市が入るスキームというのが、通常の開発とは違うのでなかったというところをご理解いただけたかなと思います。

20年以上、このまま放置してきたというようなお話をいただいておりますけれども、現実問題、ほかの自治体もそうですけれども、なかなか公共施設のメンテナンスについて、お金や手が回せる状況が全国的になかったのではないかと考えております。小金井市も同様かなと思ってまして、確かに公立保育園、市として軽視していたわけではないんですが、ほかの施設も含めて、きちんと積立てができていような状況があるというのは、ほかの自治体でもほとんど聞いたことはありません。いわゆる運営をしていくだけで精いっぱいだったのではないかと、ちょっと課長レベルで言う話じゃないんですけど、というふうに、振り返ると思っています。ですので、全国的に公共施設どうするんだということが、今、問題になっていて、その中でどうしても市がやらなければいけないというふうに決まっているかどうかというところが、一つの分かれ目になってしまっています。

そういった中で、保育園の事業というのは、民間でもできる事業になってしまっていますので、小金井市として全て手放すのか、一部を強化して職員の方々にも協力をしてもらうのかなど、様々な考え方の中で、このような案にさせていただいたというのが、

正直なお話でございます。

これから育っていくお子さんたちに対してのメリットというところでございますが、先ほど質のご質問もいただいています。質については、きちんとした定義づけは難しいのは理解をしているんですが、そういった質を上げていくための、やっぱりマンパワーが必要だというふうに思っていて、それは、公立保育園の5園を残して、その園ごとにやっていくやり方もあるかもしれませんが、私たちは、そこから経験ある職員を全体を見てもらうような立場に引き上げるとともに、園の数は少なくなりますけれども、そこでも地域に還元できるような取組を強化していくために、そこにも人を多く配置していきたいというふうに考えて、今回、この案を考えさせていただいたというところでありますので、ご意見が一致するかどうかは分かりませんが、ご質問に対してそれぞれにお答えするとなりますと、そういうこととなりますので、今ある民間さんの質の維持・向上にも行政として努めていくための部分ではメリットがあるというふうには考えております。以上です。

○三浦保育課長 ご質問、すみません、遮ってしまって。再質問どうぞ。

○参加者 質問というより意見なんですけど、学校関係者であることから、プレハブでもずっとやってきたので、たとえ園庭がなくても、やはり、その分、戻ってきたときに新しい園庭があるのであれば、それは保護者としては安心なのかなとは思いました。実際、小・中学校も、例えば小学校だと、近くの中学校さんに例えばプールを借りるとか、校庭借りて体育をやるということはたくさん見てきてますので、建て替えて維持されるということであれば、すごくいいのではないかなとは思っています。ありがとうございます。

○三浦保育課長 ちょっと、じゃあ、予定時間が過ぎていきますので、男性の方、ちょっと待ってくださいな、そのほか、ご質問される方、いらっしゃいますか。1巡目の方ですよ。じゃあ、すみません、男性の方、女性の方、先でよろしいですか。

女性の方、お願いいたします。

○参加者 すみません。ちょっと手短かに、1点だけなんですけど、財政効果のところ、どのくらい削減になるかという比較は出しているんですが、例えば、サービス拡充するに当たり、この辺の予算的にはどのくらいを、見込みを立ててらっしゃるのかというのと、サービス拡充の、項目1から4までありますが、これは優先順位で、この順で対応していこうと考えていらっしゃるのか、もしくは、同時進行みたいな感じで考えてらっしゃるのか、ちょっと詳細をお聞きしたいです。お願いします。

○三浦保育課長 サービス拡充の部分の所要額の見込みと、優先順位ということでよろしいですかね。  
担当からお願いします。

○平岡保育政策担当課長 では、12ページの表でご説明させていただいてよろしいでしょうか。職員のほうを集約化して行っていくという関係がありますので、時期について、段階的に行っていくということになります。物事の優先順位というのはないんですが、段階的にお子さんの数を減らしていく分、職員を回していくことになりますので、それによってスタートできる時期が変わってるというふうにご覧をいただければと思います。特に内容についての優先順位ではございません。

それから、サービス拡充に係る予算についてですけれども、基本的に1番から5番まで、表の中の1番から5番までの人件費に相当する部分については、既に織り込み済み、この財政効果を出す前に、金額として計上していますので、織り込み済みになります。

ただ、6番目と1から5番目の人件費以外に係る事業費については、今後積算をしていくことになると思います。

以上です。

○参加者 ありがとうございます。

○三浦保育課長 では、男性の方、最後にさせていただきます。

1番前の男性の方、お願いいたします。

○参加者 すみません。有識者を交えた会議で議論をしていただきたいというふうに先ほどお願いしたんですが、市長さんは、この今の方針上のスケジュールで進めることが保育の向上につながっていく、考えてないということだったんですけど、これは要望です。なので、この場で決着した話にしていただきなくて、お願いします。ぜひお願いします。

それと、あと、もうお答えされなくても結構なんですけども、やっぱり市庁舎建設のお金の話と、保育園のお金の出どころの話というのは、ちょっと私、私の頭脳ではちょっと理解できなかったんで、ちょっと資料とか何か後で頂けないかなと思うんですが、何かちょっと説明が、やっぱりそうはいつでも市のお金であるし、市役所が賃料が大変だというのも分かるんですけども、市役所に関していえば115億円で、これは借金とか、あと、市の今までの蓄えとか、取り崩したりとかしてでも建てるということなので、ちょっとそこら辺のところ、もうちょっと、やっぱり対比として、どうしてもこれについてはちょっと、何ていうのか、やっぱり、えっというふうになんか思わざるを得ないので、これについても、もうちょっと資料なりで説明をしていただきたいなと思

ます。

まだ今後も、この6回に限らず、ずっと説明もして、機会を見つけてしていただけるということだったので、よろしくお願いします。

以上です。

○西岡市長      ありがとうございました。1点目、ご要望ということで、受け止めさせていただきます。

庁舎建設のところの、今日の本題とはちょっと違うので、あまり時間をかけて、もう、今も時間が過ぎてしまっておりますので、なるべく簡潔にお答えをしたいと思います。また、ご指摘の115億という数字がありましたけれども、これもまだ現在、実施設計の最中でございまして、まだ固まったものでもなく、また、建設コストとして、市が基本設計の段階で想定をしていたのを84.4億円、それにプラスして、浸水対策ということで1.2億円なので、85.6億円というのを一応、市としては想定して、そこに実施設計の作業工程の中で増額要因や減額要因というものを総合的に判断し、また、物価上昇とか経済動向というので、建設コストというものも反映してまいりますので、今現在、精査中というふうにご理解いただければと思います。

財源計画として、これまで示してきた資料等をご紹介しますと、一般財源、歳入部分ですね、庁舎と福祉会館に使う歳入部分での一般財源は、非常に少額に抑えておりまして、この一般財源というのが基本的には年度の予算に当たるわけですが、ここは市民への影響を極力抑えるために非常に少額に、極めて少額に抑えてあります。主に東京都の補助金、市町村総合交付金、また、子ども家庭支援区市町村包括補助事業補助金、こういった活用できるものは活用しますが、全体の歳入としては庁舎建設基金、それから、地域福祉基金、庁舎建設基金で約27億円、それから、地域福祉基金で約6億6,000万円、また地方債ということで61億円、そして、雑収入ということで、これは第二庁舎を所有者に返還いたしますので、その関係で所有者から返ってくる返還金として約7億円を想定してるところでございます。なので、基金と起債というのが非常に大きな部分です。私が先ほどから申し上げておりますのは、ここで皆様方に計上させていただいておりますランニングコスト、年間3.4億円、あるいは10年間で27億円という金額についての財政効果が見込まれるところ、こういった部分につきましては、私は市長といたしまして、子育て・子育て・教育環境の向上、こういった分野にこの予算を充てていくというのが私の方針なので、毎年毎年予算編成を行っていくことに

なりますが、そういったところにもしっかり主眼を置いて、今後の市政運営に臨んでまいりたい。児童福祉費は、先ほどご紹介しましたように、この6年間、かなりの勢いで増額してまいりました。特に待機児解消という部分が非常にウエートを占めているかとは思いますが、それ以外にも、先ほど申し上げましたように、他市と比べて、まだ小金井市ができていないようなサービス、あるいは子育て支援、格差是正、様々なことにまだまだこれから取り組んでいきたい。とりわけ、公立保育園の分野については、12ページにございますようなサービスの拡充というものにぜひつなげてまいりたいということをお願い申し上げます。それが私の意思、決断でございます。

冒頭、私からは以上です。

○三浦保育課長 よろしいですか。

では、ご要望承った部分ございますけども、ちょっとすみません、私の進行がたどどしくて申し訳ありません。

○参加者 聞いてもらえますか、意見。

○西岡市長 どうぞ。

○三浦保育課長 どうぞ。

○参加者 すごい話し合ってきたということも分かったし、今回いろいろとお話を聞いて納得できた部分もあります、ちょっとできない部分もあります。先ほどおっしゃられた方と同じなんですけど、要望として、学識者や、もっと広くいろんな人を交えた検討会チームを発足して、話し合いを重ねてほしいです。というのも、今まで運協とかでたくさん話し合ってたっておっしゃいますけど、実際に廃園案が出たのは8月の前、7月の末ですよ。で、保護者も運協のほうも、みんな大混乱をしたという印象を受けています。というのは、今まで廃園案については、ほとんど触れられてきてなかったんじゃないかというふうに受け止めました。その後、厚生文教委員会のほうとか、市議会のほうでもすごくもめた、紛糾したという話を聞いています。ということは、まだまだ改善する余地はたくさんあるのではないかというふうに思っています。

いろいろあつての1年延伸ということだったんですけども、まだまだ市の中の話合いでは見えなかった、第三者からの目によって明らかにされる部分、よりよくなっていく部分というのがあるんじゃないかと思っていますので、ぜひ、強く要望したいと思いません。以上です。

○三浦保育課長 ご要望でよろしいですか。

○参加者 はい。

○三浦保育課長 では、最後で。

○参加者 すみません、ごめんなさい、時間超過している中で、でも、言いたいことが言える機会はなかなかないので、これも私、保護者としての意見です。

妻も話してましたけども、上の2人は民営のほうに行ってますけれども、わかたけさんのほうでは、園庭開放がまだコロナ禍でもあった頃に、たくさんお世話になりました。実際にわかたけに通っているわけではないですけども、先生方は自分の娘たちを気にかけてくださって、時々入り口まで行ったりすると、元気だね、大きくなったねなんて声をかけてもらえます。

やはり、予算とか老朽化とか、非常に財政的な面、それから、役所的な面もあるとは思いますが、私たち保護者としては、やはりそういう場だということをぜひ知っていただきたいなと思っています。たとえ卒園したとしても、やはり戻ってくる事ができる場と思っています。たとえ先生方がほかの園へ移動されたとしても、子どもたちにとっては、その保育園が全てです。それは、学校であろうが、大学であろうが、変わらないと思うんですね。

だから、いろんな立場、いろんな側面はあるとは思いますが、子どもたちにとっては一つしかない保育園だということをぜひ受け入れてくださった上で、今後の検討をしていただき、また、私たち市民へどのようなお話しがあったのか、会議を開くのであれば、どのような話になったのかということ、ぜひ今後も知らせていただきたいと思っています。私たち大人だけではなく、子どもたちにとっても大切な園だということ、すみません、最後に意見させてください。すみません、ありがとうございました。

○西岡市長 貴重なご意見、また、ご要望を聞かせていただきまして、ありがとうございました。一つ一つの保育園に毎日のようにドラマがあり、記憶になり、またそれが思い出となり、私も小金井というまちで育ちましたし、たくさんの方々に地域でお世話になって、本当に今の今日があると思っています。大切な命が成長していく過程には、本当に一人一人にたくさんのドラマがあり、たくさんの人たちの関わりが生まれ成長していくというふうに思いますし、小金井市は地域の力や市民の力、こういったものがもっともっと生かされて、よりよい子育て・子育で・教育環境をつくっていききたいと、私自身も思っています。私も市長になる前は保育園で仕事をしておりました。毎日毎日がドラマで、民間ですけどもね、保育士さんたちがどれほど頑張っているか、本当に毎日毎日、子どもた

ちのことだけを考えると、真剣に仕事をしている、向き合っている保育士さんたちに本当に感銘しました。なので、私もそういった思いは十分理解しています。

しかし、その上で、今般、私としてはご要望はご要望として、もちろん受け止めさせていただきますが、将来のこと、今後のことも、市長としては全体のことを考えなければいけないということ、そこで方針案というものをお示しさせていただいて、保護者の説明会に臨ませていただいているところであります。

以上でございます。

○三浦保育課長 それでは、すみません。以上をもちまして、質疑応答のほうを終了させていただきます。

先ほどもご案内いたしましたところでございますが、本日の説明会につきましては、会議録等を作成いたしまして、個人の名前が特定できない形で、後ほどホームページにて公開をさせていただく予定でございます。

以上をもちまして、本説明会、終了させていただきます。本日はご多忙の中、ご参加いただきまして、誠にありがとうございました。お忘れ物のないよう、お気をつけてお帰りください。

閉 会